

週刊

新宿新聞

THE SHINJUKU SHINBUN

発行所
新宿区新聞社
編集・発行人 喜田 勇
新宿区西新宿1-1-25
ワコービル2F



購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊163周年 電話3369-6195 FAX3369-0759 (印刷2017年12月4日第3刷刷数部別可)

主なニュース

- 2面 造幣局跡地・東京国際大学が進出
- 3面 新宿通り・モール化に向け社会実験
- 10面 世界に情報発信/東商新宿支部
- 6面 広域渋谷の発展へ/東商渋谷支部
- 8面 三丸興産が創業100周年

代々木公園前の19階マンションの建設工事(右)



渋谷は2棟が相次ぎ供給

渋谷区内では今年、2棟のタワーマンションが相次ぎ販売を開始。いずれも販売は好調だ。代々木公園前の19階建てマンション(185戸・19年完成)は今年5月から販売が開始され、すでに180戸が契約に結び付いている。また恵比寿駅前の23階建てマンション(310戸・19年完成)は今年7月より販売開始、こちらも3分の1にあたる100戸程が供給、そのうち9割強が契約に結び付いている。このタワーマンションの売れ行き好調を受け、再開発の主体がオフィスからマンションへと移行しているのが新宿だ。五輪後の完成をめざし、3地区で計5棟約4,660戸の分譲タワーマンション開発計画が進行中だ。

23恵比寿階

駅近・高級仕様で人気

代々木公園前 1期(21次) 131戸は即日完売

JR恵比寿駅から徒歩10分。平均販売価格は7分の距離で19年2月末1億3千1億5千万円の完成をめざし建設中なのが23階建て「シティタワー」(坪単価60万4千600円)。坪単価も百万円超え、今年7月に販売がスタート。平均販売価格は7分の距離で19年2月末1億3千1億5千万円の完成をめざし建設中なのが23階建て「シティタワー」(坪単価60万4千600円)。坪単価も百万円超え、今年7月に販売がスタート。平均販売価格は7分の距離で19年2月末1億3千1億5千万円の完成をめざし建設中なのが23階建て「シティタワー」(坪単価60万4千600円)。

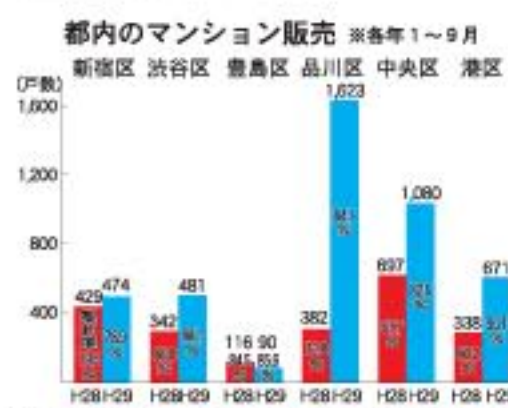
中でも、高級仕様の目玉物件となった。買主層は経営者、医者などの富裕層が目立つという。住友不動産は「高層・高級住宅街である恵比寿駅前で、これだけまとまった戸数(300戸)を販売していくスタンスで、地権者分を除く販売ペースは好調だ。1期1次販売16戸、2期1次販売15戸は共に即日完売。平均価格は1億800万円超え、11月上旬までに185戸が供給、うち131戸が契約に結び付いている。

買主者の年齢は約3割が50代、次いで40代が2割と40・50代が中心。会社経営者・役員が約30%、医師・弁護士が約15%を占める一方、一般の会社員比率も40%強を占め、代々木に住みたいという一般のファミリー層からの人気も高いという。

渋谷が「新宿を上回る」平均価格は1億800万円超え、11月上旬までに185戸が供給、うち131戸が契約に結び付いている。

代々木19階 恵比寿23階 販売は絶好調

新宿は五輪後に5棟4,660戸開発



新宿43階460戸は22年度に完成

「中央北地区」に続き2地区で再開発事業が着手される。「中央南地区」では、43階建てマンション(約460戸)を建設する。年内の都市計画決定、18年度の本組合の設立、19年度の工事着手、22年度の完成をめざす。準備組合側では約2億5千万円の総事業費を見込んでいます。

然高い。一方、北地区では昨年12月に本組合が設立。後、開発される新宿区43階オフィス・マンション、39階マンションの2棟(約千戸)を来年秋頃の工事着手、21年秋・冬の完成をめざし建設する。西新宿ではこのほか甲州街道沿いの西新宿3丁目(約3千2百戸)のマンション計画がある。18年度の本組合設立、28年度完成をめざしている。

代々木公園前1期1次販売16戸、2期1次販売15戸は共に即日完売。平均価格は1億800万円超え、11月上旬までに185戸が供給、うち131戸が契約に結び付いている。

多文化共生社会の実現へ

ダイバーシティを推進 渋谷区長 長谷部 健
多文化共生社会の実現には、異文化を理解し、受け入れる意識を醸成することが必要です。渋谷から発信してきたファッションや音楽は、多様な文化が混じり合うことで生み出されたものです。渋谷区基本構想においては、ダイバーシティとインクルージョンという考え方を大切にしています。人種や国籍も多様性の一つとして捉え、異文化を尊重し、その違いをエネルギーに変えていくことで、渋谷区を国際都市として成熟させていきます。

防災対策を発信 新宿区長 吉住 健一
新宿区は現在、自31の国や地域の約4万3千人の外国人の方が暮らし、そのうち約12,000人を占めています。今後も留学生を中心とした外国人住民の増加が見込まれる中、互いの文化的違いを認め合い、一人ひとりが地域社会の一員として共存できる「多文化共生のまち」を目指してまいります。

世界に選ばれるまちへ 豊島区長 高野 之夫
外国人住民の方が人口の1割を超えた豊島市の将来像は、安全・安心な都市空間の中で、誰もが多様な文化を享受し、世界の人々を魅了する賑わい溢れる「国際アートカルチャー都市」です。多文化共生を推進することは、その実現にもつながります。